

## 2021（令和3）年度第3回組織等検討委員会 議事録

開催日時：令和3年12月12日（日） 14:00～15:00

開催場所：中中村集会所

出席者：佐佐木(委員長)、金田、足立原（以上委員）、  
宮崎（会長）、岡田（副会長）、佐藤（会計）、山浦（上・自治会長）、春山（中・自治会長）、  
鈴木（下・自治会長）、國本（庶務） 敬称略

司会： 岡田副会長

議題：令和3年度町内会総会に向けて、今年度の組織等検討委員会の議論をまとめる。

### ① 第1回、第2回の経過について（これまでに議論された内容）

- ・町内会会員の加入拡大についての検討内容
  - 自治会・町内会への加入世帯の減少の歯止めが必要。
  - メリットとして打ち出せる点は何か。（メリットが伝わっていない）
  - 既存会員の退会の要因（班長他役員担当が出来ない、会費が高いなどといった声に対して）を認識する。 → 抜本的解決策につながる。
  - なぜ入会しないのか、なぜ退会したのかの理由を把握する。
  - 町内会五役会、防災委員会、祭り実行委員会、広報委員会、子供会、小山長寿会等々全体的な取り組みのアピールが必要ではないか。
- ・加入促進案の検討と実施
  - 入りたいと思える魅力の発信。
  - 未加入世帯への自治会・町内会からの働きかけ。
  - 今年度、町内会として安全確認タオルを配布した。防災委員会としては、中村町内会防災マニュアルを年内配布をめどに作成中。
  - ホームページコンテンツや、加入促進のためのチラシをビジュアル化し充実させた。
  - 災害時における対応について会員に向けて広報の充実が必要。  
調整中の内容：川沿いの住民に対しての駐車場の確保、シニア以上世帯への見守り機能（中中村自治会では初めている）

12月12日追記：

- ・自治会費については、他町内会の金額等、相場観の把握が必要。
- ・シニア世帯以外にも若い人達へのメリットの強調が必要ではないか。  
世代間で価値観が異なっており、多様な価値へ目を向ける必要がある。  
子供、若者、シニアすべて含めた自治会の在り方を考えるべきだと思う。
- ・災害関連情報発信には若い世代からも共感を得られているので、その内容も広報していけばいい。

### ② 中村町内会地域をもっと元気に。 町内会の魅力の発信に向けてのアイデアフラッシュ

- ・出来るだけ負担がかからないものを考えたい。
- ・子供会と町内会がもっと連携することが必要。
- ・地域の子供たちを組み入れた要素を考えると父兄の見方が変わるかもしれない。
- ・学校への働きかけ。連動の難しさがあるので、「地域としてこんなプログラムをやるから来てくだ

- さい)、という提案なら実現可能かもしれない。
- ・盆踊りに従来のプログラムの他に、小中高生向け曲目を考える。  
従来の盆踊りだけでなく、最近女の子に人気のダンスなどの時間を組み込んだらどうか。
  - ・ホームページに小中学校のニュースを入れて、加入世帯だけではなく未加入世帯へも関心を持たせたい。ホットな情報を遅滞なく発信できるのではないかな。  
→ 個人情報保護などセキュリティの課題があり実現は難しい。
  - ・中村地区は歴史的な伝統と新しい感性との混ざり合った地域性があり、それをまとめた魅力を発信することが重要。今までの事業にさらに工夫を加えていくことが必要。  
子供にかかわる事業により、父兄との関わり合いが増えてくる。  
→ 中村町内会全体のオリエンテーリングの実施（下中村自治会では1月に予定予定）  
→ 中村サミットなどを開催したらどうか。
  - ・中村には御輿の組織があり様々な活動をしている。その組織的な行動力を活かした展開も有効だと思う。下中村はOBを中心とした組織でプロジェクトを作って事業を行っている。  
来年は、御輿の40周年事業の年なので、祭り実行委員会で検討しそれを生かすイベントもいいのでは。  
→ 御輿連の設立は「子供の心のふるさと作り」が目的だった。  
15年前の25周年記念事業で「中村みこしの縁起」を作成した。  
← 「子供の心のふるさと作り」の意識を基に祭りの日だけではなく1年を通じた活動に繋がれたらいいと思う。
  - ・光明寺からお寺の駐車場でフリーマーケットをやりたいという要望があった。  
ここではバーベキューも可能。デイキャンプなどの実施も考えられる。  
→ 下中村で防災倉庫の設置利用契約をしていることもあり、交流の拠点としての価値があるので、アイデアをまとめて光明寺に利用の申し入れをしたらどうか。
  - ・子供会は小学生が対象だが、中学生、高校生世代の参加を含めたイベントの企画が重要ではないか。学生ボランティアの募集もよいのでは。  
子供が中学生になり、子供会とのかかわりがなくなると同時に親が町内会とのかかわりの必要性を感じなくなる傾向がある。

〈今後に向けて〉

これまでの議論を基に一年を通しての中村町内会の賑わいプロジェクトを創出する。

新規に催し・行事を計画実行することは大変なエネルギーが必要。

町内会でプロジェクトを考えて出来ることから、出来るものから進めていただきたい。

- 町内会は毎年入れ替わるので、安定した企画する組織が必要。組織等検討委員会の中でその機能を果たせればいいのではないかな。 → 運営は祭り実行委員会と連動すればいいと思う。

以 上